

令和3年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和3年6月26日（土） 14時00分 ～ 15時00分
【場 所】 上宇部ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者5名 上宇部地区地域づくり協議会会長 : 浅田 宏之 上宇部地区自治会連合会副会長 : 松山 一人 上宇部地区民生児童委員協議会会長 : 池富士淑江 上宇部地区地域づくり協議会広報活動委員会会長 : 脇 彌生 上宇部地区社会福祉協議会会長 : 藤井 芳治 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○秘書課 ○事務局（広報広聴課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○コンパクトシティ構想・地域コミュニティ核形成の施策・方針について 【地域づくり協議会会長】 ・都市計画マスタープランで示されているコンパクトシティ構想については、基本的には賛成だが、小学校区を基本としていることに課題がある。今後の地域づくりを考えるうえでは、学校区の再編も踏まえた行政区の見直しが必要なのではないか。 ・コンパクトシティ構想では、上宇部地域は居住誘導区域となっているが、これに関する市の具体的施策が見えて来ない。地域づくり計画を策定するにあたり、市の方針を聞きたい。
【市長】 ・学校区の再編については、地域の歴史も重要ではあるが、子どもたちの教育環境を最優先に考えていきたい。 ・新しい時代の局面から、GIGAスクール構想により、全ての学校をオンラインでつなぐことも可能になった。デジタル化の進展や地域の実情を見定め、自治会の皆様の意見を聴きながら学校区の再編を進めていきたい。

- ・都市計画マスタープラン、立地適正化計画に基づく施策について、具体的な方向性が見えていないのが現状である。今後はこれらの計画を策定作業中の第五次総合計画を含め市の重要計画と方向性を合わせ、整理していきたい。

○真締川・時雨川の保全・改修について

【地域づくり協議会会長】

- ・上宇部地区で心配なのは、真締川・時雨川の氾濫による水害である。真締川の上流地域は未整備の状態で、川が氾濫する危険性がある。県管理の河川であるが、蛍等の生物との共生も踏まえながらの改修を希望する。

【市長】

- ・県は改修計画に基づいて整備をおこなっている。今後も市として、適切な維持管理と、治水、防災のための改修等を要望していく。

○子ども会の活性化について

【自治会連合会副会長】

- ・他地区同様に、子ども会の加入率が低い。上宇部小学校では全児童の5%に留まっている状況である。子どもの健全な育成のために子ども会活動は有効である。子ども会加入率を上げるため、行政にも何等かの策を講じてもらいたい。

【市長】

- ・親が共働きで子ども会活動を手伝う時間がないため、子どもは参加したくても会に加入できないことが多い。子ども会活動をはじめとする地域活動を、親の世代（若い世代）が参加しやすい形に変えていきたい。

○飼い主のいないネコ対策について

【自治会連合会副会長】

- ・ネコによる被害が増えている。去勢手術等自治会が負担するにも限界がある。行政の抜本的な対策を求める。

【市長】

- ・去勢や不妊手術にかかる個人や自治会への補助制度を今年1月に拡充したので、地域とともに取り組んでいきたい。また、ネコや野犬等の問題については、人間側にも問題があるといった課題もみえてきたので、総合的に対応していきたい。

○民生・児童委員の増加について

【民生児童委員協議会会長】

- ・民生委員は、高齢者の増加や、障害者の見守り、更には防災関係の対応などにより負担が増えてきている。きめ細やかな支援を継続していくためには、担い手を増やすとともに、質の向上を図ることが求められる。この問題に、行政としてどう取り組むのか。

【市長】

- ・民生委員の数は県の条例で上限が決められている。しかしながら十分な数とは言えない。民生委員の皆さんの負担を減らすために、市ができることを検討していきたい。

○家庭教育の重要性と公的支援について

【民生児童委員協議会会長】

- ・ひとり親家庭や地域で孤立する家庭の支援について、様々な人が支援にかかわっているがマンパワーが足りない状況である。市も更に関わりを強めていくことが必要ではないか。

【市長】

- ・地域の皆さんの活動に感謝している。市としては相談窓口の充実と子どもたちの小さなSOSを受け止める体制づくりが必要と考えている。特にスクールソーシャルワーカーとの連携が重要と考える。
- ・市は、これから子どもの貧困対策の計画を策定する。どのような支援が必要なのか皆様の声を聴きながら策定したい。

○郷土愛を育む教育について

【地域づくり協議会広報活動委員会】

- ・宇部の未来を担う子どもたちが宇部を愛する心を育むことは大切である。小学生の社会の副読本である「わたしたちの宇部」も改訂された。宇部市の歴史を知る機会を増やすことで、子どもたちに自分が住む地域を誇りに思ってもらい、そして、宇部市に定住してもらいたい。

【市長】

- ・自分の住んでいる地域の歴史を学ぶことはふるさとへの愛着心を育む。ふるさとへの愛着心があれば、ふるさとで自分の人生を考えることにつながる。このようなことから子どもたちが地域の歴史を学ぶ機会を大切にしていきたい。
- ・今年度から中学生を対象に、宇部市の企業を紹介する機会を作る。将来、宇部市で人生をおくることを考えてもらえると期待している。

○地域の宝である史跡・名所整備について

【地域づくり協議会広報活動委員会】

- ・上宇部地区には多数の歴史的史跡があるが、以前、教育委員会が設置した看板が消失している。史跡等の看板の復活と、福原史跡公園の旧建物の図面の看板設置をお願いしたい。

【市長】

- ・国や県が指定している文化財は、その予算で看板等が設置されるが、それ以外は地域の負担となっている。限られた予算の中ではあるが、優先順位を検討して整備をしていきたい。検討するにあたっては、ご提言をいただきたい。

○SDGsの取り組みについて

【社会福祉協議会会長】

- ・上宇部地区では、身近なテーマでSDGsを体験できるような企画を計画している。水道料金や電気代を削減する目標を立て、それを実行することで、環境にどれだけ効果があるかなどを考える。行政からの支援をお願いしたい。

【市長】

- ・SDGsは、大事な取組だと考える。行政の取組みは基本的にはSDGsに沿ったものである。現在策定している第五次総合計画についても、すべての事業をSDGsの目標ごとに色分けする予定である。SDGsを市民の身近な暮らしレベルまで落とし込んでいきたい。子ども達にもわかりやすい形で体験してもらうことで、SDGsを理解してもらいたいと考えている。

○ときわスポーツ広場の整備について

【社会福祉協議会会長】

- ・ときわ公園は遊歩道や駐車場も整備され、素晴らしい観光資源であると思う。もっとPRして観光客の誘致を行い、観光収入の増加を図ったらどうか。

【市長】

- ・ときわ公園は全国に誇れる公園であると認識している。また、最近は空港からのアクセスの良さ等からワーケーションやサテライトオフィスとしての活用も注目されている。さまざまな可能性を追求しながら、ときわ公園の魅力を全国にPRしていきたい。

【市長】

- ・本日の懇談会開催にあらためて感謝したい。
- ・市民の皆様との意見交換を通じ、市民の暮らしやすさ、未来の方向性を求めていきたい。
- ・市政懇談会を繰り返しながら、宇部市のまちづくり、地域づくりを進めていきたい。